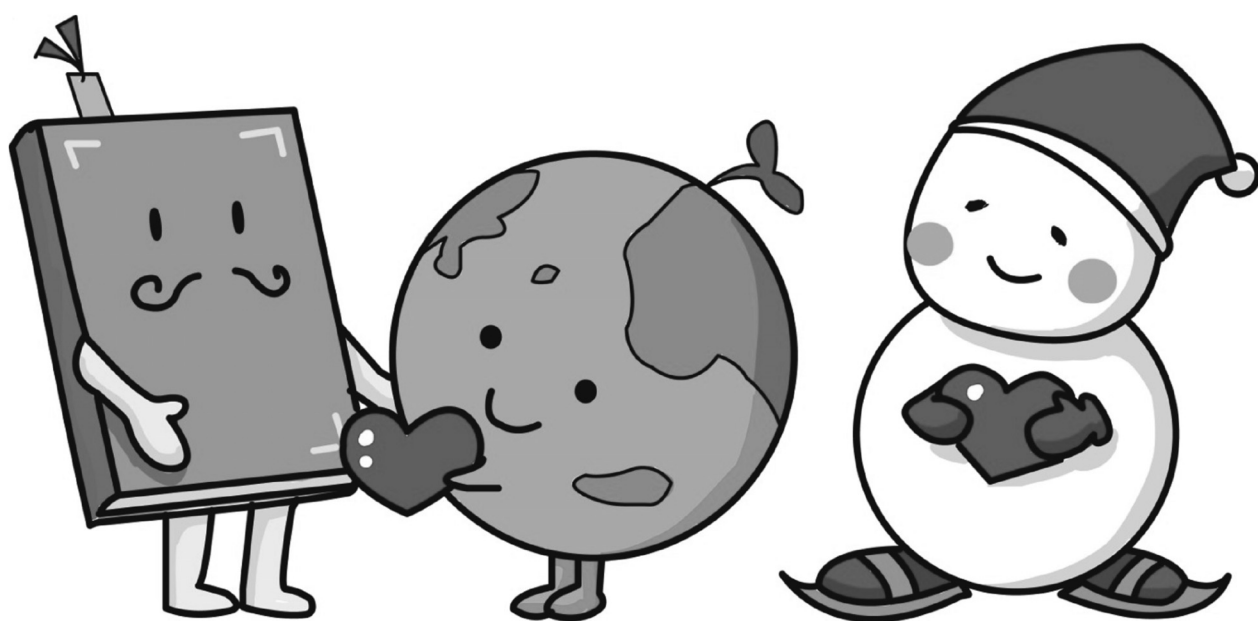


幼保小連携自然体験活動

# なかよしキャンプ



札幌市教育委員会 生涯学習部 生涯学習推進課

なかよしキャンプ

# 札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課

幼保小連携自然体験活動



## 1 はじめに

札幌市教育委員会では、1年後同じ小学校に通う幼児（年長児）と5年生児童を対象にした幼保小連携自然体験活動「なかよしキャンプ」を実施しています。

本事業では、札幌市の豊かな自然環境を活用し、自然体験活動を通して人間性や社会性、コミュニケーション能力を高め、共に生きる喜びを実感できるよう推進していくことを目的としており、平成26年度から4区5校を対象に実施してきました。

**1年後、同じ学校の1年生と6年生になる**

### 幼児のメリット

- 入学への安心感・期待感をもつことができる。
- 適応行動力が身に付く。
- 自律性・自主性が養われる。
- スムーズな小1スタートカリキュラムに繋げることができる。

### 小学校5年生のメリット

- 最上級生としての心構えができる。
- 責任感や自覚が芽生える。
- 下級生との接し方を学ぶことができる。
- 優しい気持ちが養われる。

※当事業全体の概要については、平成27年度「札幌市の幼稚園・保育所・小学校の連携・接続実践事例集」を参照ください。

ホームページアドレス

[http://www.sec.sapporo-c.ed.jp/yosen/topics\\_suishin27.html](http://www.sec.sapporo-c.ed.jp/yosen/topics_suishin27.html)

## 2 実施内容

「なかよしキャンプ」では、全5回の活動を通じて子どもたちの交流を深めるとともに、児童・年長児の成長を促していきます。

各活動におけるコンセプトは以下のとおりです。



### (1) 学校探検、地域の公園での活動

学校や地域の公園等を活用した自然体験活動を通して、児童と幼児の交流を促すと共に、自分が住んでいる地域にある身近な場所に対する理解を深める活動です。

### (2) 地域の特色を生かした活動

自然体験活動をベースに、地域の文化や歴史に根ざした活動を取り入れることで、自分の住む地域への愛着を育むことができる活動です。

また、児童会館やコミュニティセンターといった施設を活用することで、入学後にそれらの施設を利用する幼児にとっては安心感にも繋がります。



### (3) 野外炊事

「美味しいご飯を食べよう」という明確な目標に向かって協力して取り組むことで、チームワークを深める活動になります。

火や包丁を使う活動のため、5年生は安全を意識して幼児に関わろうとする姿が見られ、責任感を養うことに繋がります。



幼児にとっては新たな挑戦の連続です。自分の手で野菜を切ったり薪を割ったりする活動を通して、「〇〇ができた」という達成感をもつことができる活動になります。これが大きな自信となり、チャレンジする心を育むことに繋がります。

### (4) 宿泊活動（4回目）

活動のクライマックスです。青少年山の家で、雪を使った遊びやキャンプファイヤーといったアクティビティを存分に楽しめます。

また、ここまでの3回の活動で培ってきたチームワークで、慣れない環境での生活体験に挑戦します。寝食を共にすることで、5年生と幼児の仲をより深めていくことができます。

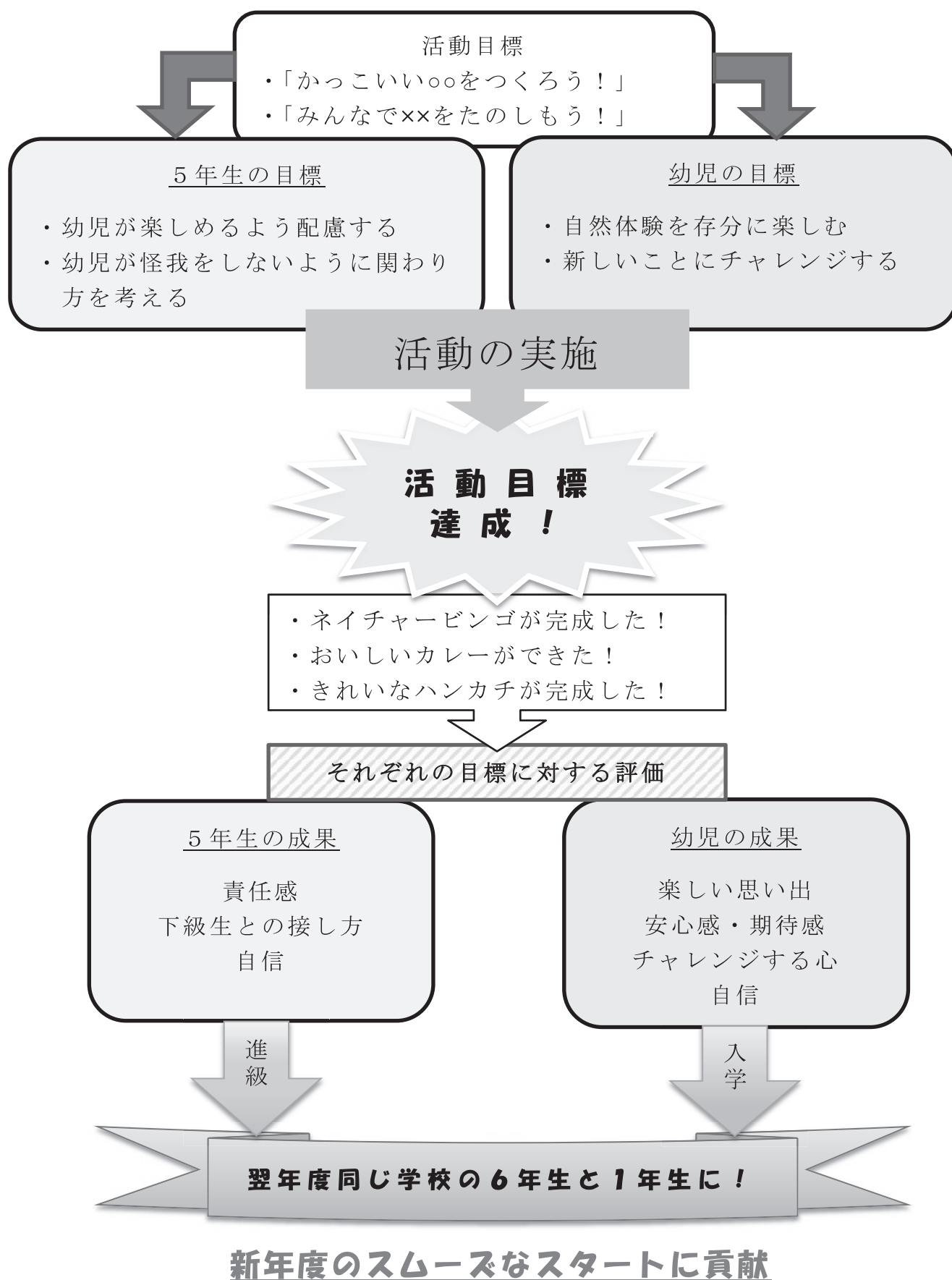


### (5) 学校での振り返り



学校のグラウンドを利用した雪遊びや学校探検を行います。1年間のまとめの活動として、5年生が主体となって会を進めます。これらの活動を通して、5年生は最上級生としての心構えを、幼児は入学に対する期待感を高めることに繋がります。

### 3 なかよしキャンプにおける取組の流れ





### (1) 活動目標の設定

「藍のたたき染めでオリジナルハンカチを作ろう！」等の活動目標を設定します。さらに、より具体的なイメージをもつことができるよう、完成品の写真を用意する等、子どもが活動に対する見通しをもてるような工夫を心掛けています。



### (2) 5年生・幼児の目標

活動目標を達成するために、5年生・幼児それぞれに合った具体的な目標を設定します。これにより、5年生は幼児への関わり方、幼児は自分が頑張りたいこと等の見通しをもつことができ、主体的に活動する姿に繋がると考えています。



### (3) 目標に対する評価

5年生・幼児それぞれの目標について、達成することができたか、目標達成に向け何を工夫し、どのように頑張ったか等を振り返ります。

5年生からは幼児への関わり方、幼児からは自分ができるようになったこと等を引き出し、リーダーからの評価やグループ内での相互評価を行うことで、個の成果からグループ全体の成果に繋がります。

### (4) 成果の確認

目標に対する評価を通じて、活動の中で自分なりにできたことを見つけていきます。この過程で、自信や責任感、チャレンジ精神などが育まれていきます。



### (5) サイクルの積み重ね

なかよしキャンプでは年5回の活動を通じて、(1)から(4)までのサイクルを繰り返します。5回目の活動時には、幼児も楽しめる遊びを5年生だけで考え、一緒にやり遂げることができるまでになります。



## 4 実践事例

### 地域の特色を生かした活動

- ・ 近隣の公園・緑地での活動  
    { ネイチャービンゴ }  
    { 色合わせ }
- ・ 藻岩山登山
- ・ 藍のたたき染め
- ・ 海辺での生物観察

- ・ 地域にある資源を用いることで、体験を普段の遊びに活かすことができる。
- ・ 地域の文化や伝統を活動に取り入れることも可能。
- ・ 普段遊ぶ場所に対して新たな視点をもつことにより、遊びの幅が広がる。

### 学校等を使う活動

- ・ 学校内探検
- ・ グラウンドでの雪遊び
- ・ 児童会館での遊び
- ・ コミュニティセンターでの活動

- ・ 学校等を活用することで、入学前に各施設を知ることができ、幼児の入学への不安を和らげることができる。
- ・ 活動時の集合場所を学校の前に設定することで、通学路に慣れることができる。

### 新しいチャレンジを促す活動

- ・ (野外) 炊事活動  
    { 焼きそば、棒パン、 }  
    { うどん、カレーライス等 }
- ・ お泊りキャンプ
- ・ 芋掘り
- ・ 果物狩り

- ・ 幼児にとっては、包丁を使う、火を付けるといった活動が大きな自信となる。
- ・ 活動に際し、5年生は幼児のチャレンジを支えることで責任感が高まり、最上級生に向けた自覚が芽生える。

「なかよしキャンプ」は自然体験活動をベースとした事業を展開しています。普段体験することの少ない自然体験には、様々な感動や発見があり、子どもにとって魅力的な活動がたくさんあると考えます。

また、明確な目標を設定することで、子どもたちが活動全体に対する見通しをもって主体的に活動する姿も生まれました。このような活動の結果を適切に評価し、その経験を積み上げることで子どもの育ちを支えるとともに、次年度には新6年生と新1年生になる参加者の仲を深めることができると考えます。

## 5 保護者の声

### 【幼児保護者】

- 人見知りで、4月から親も本人も少し不安でしたが、今は「入学してもなかよしキャンプのお友達や、お姉さんお兄さんがいるから安心してると言っています。優しくしてもらって嬉しかったので、これからは自分が困っている子を助けられるようになりたいと言っていました。
- このキャンプに参加したことで、学校の雰囲気も多少感じられて、何回か通うことで、一人で通学する不安も和らぎました。“知っている”場所に学校になったことが良かったと思います。
- 幼稚園以外のお友達ができただけで、入学してすぐに、「なかよしキャンプいたよね！」という会話から仲良くなったようで、良いきっかけになりました。
- 消極的なことが心配で、入学前に少しでも慣れてくれたらと思い参加させました。入学してからは自分から友達を作ろうとしている様子を見ると、なかよしキャンプの経験は大きかったと思います。

### 【5年生保護者】

- 異学年と交流しながらのキャンプということで、責任感をもって参加していたように思います。このような機会があったおかげで、新1年生が入学してきたときも接しやすかったようです。
- 5年生での参加でしたが内気な子なので成長できたと思います。積極性や返事、あいさつが1年を通して出てきた気がします。小さい子のお世話をする責任感も出てきて、6年生になり、成果を発揮してもらうのが楽しみです。
- 『『幼児』のお世話するのが、こんなに大変だと思わなかった』と一言。でも大変だったけど、かわいかったそうです。いい経験ができたのではないのでしょうか。小さい子の扱いに自信がついたと言っていました。
- 息子は3人兄弟の末っ子です。自分より下の子の面倒をみるのがなかったので良い経験になったと思います。4月から6年生になり、1年生をお世話できればいいなと思っています。

## 6 おわりに

新6年生と新1年生の仲が深まることで、新しい環境に対する子どもたちの不安を和らげると共に、学校生活への適応を促進するなど、子どもたちのみならず学校にも大きなメリットがあると考えます。

今後も、事業の改善を図り、よりよい事業成果を発信していきたいと思っております。

